



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第9号

同窓会だより

1990年11月末日
大阪市立大学工学部同窓会
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目
3-138 TEL 06(605)2789
発行人 繁澤 孝

ごあいさつ

同窓会会長 繁澤 孝



21世紀まで残り10年を切り、日本での今世紀最後の博覧会である花の万博も、関西でのこの種の博覧会は成功しないのではという当初の予想を大巾に上回り、入場者数2,300万人を動員し、関西の実力を示しました。

更にこれから21世紀にかけて関西では関西新空港をはじめ大阪ベイエリア開発等、25兆円に及ぶ巨額設備投資が計画されているなど、今や世界に向けての文化、情報の発信基地としての基盤を着々と整えています。

大学側もこのような社会情勢に呼応し、本年4月に工学部に新しく2つの学科を新設しました。

1つはこれからの情報化社会に対応するための「情報工学科」で、いま1つは生物の巧みな機能探求により新しい側面からアプローチを行う「生物応用化学科」であり、いずれも次世代の要求を先取りした学科であります。これにより工学部も今や8学科を擁するほどに充実してきました。我々同窓会においても今後益々幅広い人材を擁するわけで、心強い限りです。

このような母校の教育、研究面での充実を更に効果あらしめるためには、千変万化の実社会の動きを加味してこそ達成できます。そのためにも同窓会諸氏の実社会の情報を提供することが母校のレベルアップにつながります。また実社会においても益々多様化、情報化が進む中、幅広い分野で気軽に話し合える同窓会の役目は益々高まっております。工学部創立40周年記念事業として設立された学術情報交流センターの主旨もそこにあり、このセンターがもっと活用されるようになればと思います。

一方、同窓会全体の活動としても、もっと活発化したいとの思いはありますがなかなか思うように参りません。しかし日頃のきびしい仕事の中でふと同窓生であることによりなんとなくほっとした気持を感じられることがあると思いますが、この様に同窓会が砂漠の中のオアシス的な役割が出来ればと思っております。より創造性や先見性を求められる工学の分野では単に機能、性能の時代は過ぎ今や感性に訴える要素が必要で、技術者も単に専門能力だけでなく文化に対する感性を養う必要があります。同窓会も先は身近な同級生や企業内の仲間が趣味や情報の交換等を通じての身近な集まりが活発になれば、同窓会全体の活動も自然と活発化すると思えます。

会員諸氏の身近な集まりのニュース等を会報にご投稿いただければ幸いです。会報第9号の発刊に当り、この会報を通じ会員諸氏の交流が少しでも深まることを念じながら、ご挨拶いたします。

最後になりましたが皆様方のご発展とご健康をお祈りいたします。(応物・昭和32年卒・(株)毎日放送技術局長)

“会員懇親パーティー1991”のお知らせ

同級生や職場の同窓生などをお誘い合わせの上、気軽にご参集下さい。

立春の宵の一時、同窓の絆をより親密にするフランクなご歓談の場として企画しました。

詳細は、14ページをご参照下さい!!

工学部の現況

名誉会長 川村 純夫



本年4月情報工学科および生物応用化学科の新設が認められ、現在工学部は8学科6専攻の形で運営しております。なお新学科用の新学舎もB棟とC棟の間に南北軸の1階ピローチを含む地上6階建の鉄筋コンクリート造で、来年春竣工をめざして鋭意工事中で、10月現在ほぼ躯体も打ち上げました。ここまでこれましたのも関係各方面の御好意と御指導の賜物と感謝致しておりますが、なんといっても同窓会の皆様方の御支援が大きな支えとなったことを申し添えておきたいと思っております。

なお、工学部の計画はこれで終わったわけではなく、新しい時代に対応した工学の展開に備え、工学の発展と地域社会への貢献を期してさらなる工学部、工学研究科の整備充実を図るため学部内に新専攻開設準備委員会（委員長・園田教授）を設け、新しい工学部、工学研究科の像を議論していただいております。同窓会の皆様方の一層の御指導、御鞭撻をお願いする次第です。

最後に皆様方の御健勝と御活躍をお祈り致しまして筆をおきます。

(工学部長・建築学科教授)



来春の竣工に向け工学部中庭に建設中の新2学科用学舎（右側はB棟学舎、1990・11・7現在）

機柳工学科の近況

上田 祐男



ことしの夏は記録的な暑さでしたね。工学部学舎前の木々の葉も色づき始めた今日この頃ですが、卒業生の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。本年は産業界の好景気を反映し、先輩諸氏の求人活動も活発で5、6月は私の室の前は門前市をなすほどの賑いで大変でしたが、ご来訪下さった多数の諸先輩方よりご活躍の様子を聞かせて頂き、本学後輩に寄せられる期待の重さを痛感させられております。しかし学生は相変わらず大企業指向です。技術力のある中堅企業で自分の力を十分にためしてみようと云うベンチャー型の学生は少ないようです。技術系学生の技術ばなれの傾向が云われておりますが、本年の機械工学科では99%が技術系に内定し主任としては、ほっとしております。

さて、機械工学科の近況ですが、本年4月に「熱工学」講座担当として野邑教授が、「流体工学」講座担当として東教授がそれぞれ昇任され、また10月には「機械工作」講座の上神講師が助教授に昇任されました。機械工学教室としてはひさしぶりに6講座の教授全員が揃い、助教授5、講師2、助手6、技術員3名で教育・研究の陣容が一段と充実し機械工学科の一層の発展が期待できます。

トピックスとしては材料力学講座の元木助教授が4月にスウェーデンのストックホルムで開催された「新しい電磁気材料の力学的モデル化に関する国際理論応用力学連合シンポジウム」にて講演、熱工学講座の野邑教授が8月にチエコスロバキアのプラハで開催された「第7回国際乾燥シンポジウム」にて講演、機械設計講座の南奈助教授が6月にギリシヤのクレタ島で開催された「複雑な物質系の緩和に関する国際討論会」にて講演されました。また中国上海の同济大学より機械設計講座に派遣の研修生、幸沢蘭講師が1年間の研修期間を修了し9月30日帰国されました。

最後になりましたが21世紀に向けての科学・技術の発展のため、同窓の皆様方の益々のご活躍をお祈り致しますと共に、機械教室への一層のご支援をお願い致します。

(機械工学科主任教授)

電気工学科の近況

堤 四郎



今年の夏の暑さは例年になく厳しく、ようやく秋らしい昨今を迎え一息ついております。同窓会の皆様にはお変わりなくご活躍のことと推察申し上げます。5年振りに主任をお引受けして半年が経ちました。この間、学部4回生と大学

院2回生の進路指導や就職のお世話で多忙な毎日でした。ご想像の通り各企業からの熱心な勧誘攻勢？は大変なもので、この間、ご多忙中多数の先輩の方々のご来訪を頂き大変有難うございました。お陰様にて現在全員の内定が確定致しております。

さて、ただ今我が工学部の中庭では今年度新しく発足した情報工学科および生物応用化学科のための新学舎の建設工事が真っ最中です。情報工学科新設に伴って今年4月付けで電気工学科から8名の教員が移動され、電気工学科は5講座、20名の教職員構成で当分研究教育活動を進めることとなりました。電気工学科としては身を二つに割った形となりましたが、これも永い目で見るとき工学部発展の一里塚と考えられ、一同頑張っていくと考えている次第です。大学院については今のところ従来通りですが、今年の新入生が学部を卒業する時点までには、新学科に見合った専攻分野の充実が期待されることです。現在電気工学科は学部生201名、大学院生39名の学生構成ですが、このうち女子学生は6名、外国籍学生は中国7名、韓国2名、マレーシア1名が在籍中です。一方研究活動の面でも教職員一同勢力的に取り組んでおり、各種学会活動も活発に行なわれております。

学会発表を中心とした海外出張としては、2月に松下講師が第3回ニューラル・コンピューティング・ヨーロッパ会議(英国)、3月に志水教授が上海工業大学との学術交流(中国)、4月に草開助手がプラズマ重合に関するシンポジウム(米国)、5月に南助手が研究交流(米国)、9月に高橋助手が空間光変調とその応用学会(米国)、9月に堤教授と黒田助手が第11回ヨーロッパ・ハイパーサーミヤ学会(イタリア)に出席しました。

以上電気工学科の近況を簡単にお知らせしましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りする次第です。
(電気工学科主任教授)

応用化学科の近況

菌頭 健吉



9月以来、台風と雨に悩まされてきましたが、最近になってやっと、さわやかな秋晴れに恵まれるようになってきました。卒業生の皆様にはお元気でご活躍のこととおよろこび申し上げます。井本稔先生はじめ、熊田誠先生、井本立也先生、大饗茂先生の先輩教授の皆様方もますますお元気で。

さて、応用化学科の近況ですが、本年3月反応工学講座の原納淑郎教授が退官され名誉教授になられました。永い間ご苦勞様でした。現在福山大学食品工学科でご活躍です。昨年の便りで予告しましたように、本年4月工学部に2学科が新設され、それに伴い応用化学科も6講座から4講座に改組され、10名の教員が新設の生物応用化学科に移りました。来年3月に完成予定の新学舎への移転が終了すると、研究室の配置も大きく変わります。詳細は、生物応用化学科からの便りをご覧頂くことにして、応用化学科について述べますと、無機工業化学講座と高分子化学講座は従来通りの陣容です。反応工学講座は、小郷良明助教授と矢野元威講師がそれぞれ教授、助教授に昇格され、合成化学講座から移籍された三浦洋三助手を加え、講座名も反応・合成工学講座と改称され、また有機工業化学講座も、笠井佐夫助手が助教授として新学科へ転出し、ともに三人体制でスタート致しました。教育・研究に関しましては、当分の間、新学科と協同しますので、内容的にはむしろ充実されたものになります。早い機会に5講座体制をとり名実共に充実すべく立案中です。その他無機工業化学講座の澤井圭二郎助手は、ニューヨーク州立大バッファロー校での一年間の留学を終え、7月に帰国され、10月には、反応合成工学講座の三浦洋三助手が講師に昇格されました。

今年の就職は、異常な売り市場で、560社の求人申し込みがありました。産業の融合化の故か就職分野は拡大しつつあります。その分、直接求人のため訪ねてこられた卒業生諸先輩の要望に応じきれなくなり申し訳なく思っています。最後に、皆様のご健勝をお祈りすると共に、なお一層のご支援を賜りますようお願い致します。

(応用化学科主任教授)

建築学科の近況

多胡 進



本年度も、お変わりなくご清祥のことと存じ上げお慶び申し上げます。

建築学科では、大学の教育研究を発展させ、大学づくりに長年勤めていただきました二人の大先生が本年3月末日に定年に達せられ、

定年退職されました。記念の事業に当たりましては、皆様にたいへんお世話になりまして、感謝いたしております。ありがとうございます。日置興一郎先生は、建築構造学の分野で大きな成果をあげられました。三輪雅久先生は都市計画の分野で大きな成果をあげられました。学風はもとより、お人柄などでも私達に大きな薫陶を及ぼされました。両先生ともに、4月から大阪市立大学名誉教授になられました。

同4月から、急なことでありましたが、建築計画及び建築史講座で長年教育研究に励んだ中野明助手が、京都女子大学家政学部助教授に転出しました。

一方、4月には、大分大学より、三木 信博先生を工学講座担当教授に迎えました。10月には、建築防災及び建築材料講座に、谷口徹郎助手を迎えました。若手のホープであります。4月には、坂 壽二先生が助教授に、10月から杉山茂一先生が助教授にそれぞれ昇任しました。教員構成も少し変わり、教育研究の展開も将来に向けて進みつつあります。工学部の中の建築学科として、学部教育では視野ひろく、基礎力の確かさをもち、将来の創造性を培いたいと思っています。

学生諸君は、明るく元気に勉強していますが、いまだ少し、大学に在るうちにしかできないことに、何かにつけて意欲的になってくれるように仕向けたく思っています。本年度も、1年生に女子学生が数名入学しました。第2ベビーブームの受験期で、建築学科も35名定員からふえて40名前後が入学していますが、それでも他大学からみれば、総合大学の中で少人数教育が出来る規模といえます。

就職につきましては、諸先輩がつくられた信用のおかげもありまして、希望者は全員内定をいただきました。本年は、総合建設業に進む予定者が少し減少しました。将来性からいって、今後検討したいと思っています。

大学全体、工学部も、去年全学的に策定された基本計画などに沿って、新たな展開の方向に行動し出しています。建築学科も良き伝統を継承しつつ、新たな教育研究の成果をあげたく思っています。

皆様には、健康に留意してくださいましてご活躍くださいますよう。

(建築学科主任教授)

土木工学科の近況

中井 博



今年の夏は猛暑が続いたうえ、秋になると台風や長雨が続き、異常気象とも云える天気ばかりでした。そんな日々でも、卒業生の皆様には、日夜仕事に御精励のこととお伺い申し上げます。

小生、教室主任を申し付けられましたから、早や半年が過ぎました。その間、懸案の就職のお世話も、最近の業界の好景気を反映して、ほとんどの方々の行き先も決めさせていただきました。全体として、例年どおり、公務員(道路公団へ行かれる女性の方1名も含む)が $\frac{1}{2}$ 、ゼネコンが $\frac{1}{2}$ 、また重工、J R、N T T、関電、コンサルなどが $\frac{1}{2}$ で、就職先は多岐にわたっております。毎年のことながら、卒業生の皆様様の温かい御支援に、この場をかりまして厚く御礼を申し上げます。

教室の人事を、まず報告させていただきますと、Luiza H. Ichinoseさんは、都合あって元の会社に戻れましたが、この間、新潟で開催の土木学会でも、その道で活躍を続けておられます。それで、橋梁研には、立命館大学を卒業された中西克佳氏が助手として、この4月から就任されておられます。材料及び環境研の本多教授には、来年3月、定めによって退職されますので、そのあとをどのようにするのか、教室主任として大きな仕事が残されております。

教員に関する喜ばしいニュースとしては、平成元年度、構造研の鬼頭助手が「鋼板・コンクリート合成床版」に関する一連の研究で、土木学会論文奨励賞を受賞されました。また、大型構造物実験室内には、文部省から大学院最先端設備費をもらい、ハイブリッド実験システムが設置され、若手の方々新しい研究に着手されました。

海外との交流も活発で、この3月には角野助教授が米国のコーネル大学へ1年間留学、4～5月には園田教授が伯国のサンパウロ大学へ客員教授として出張されました。これに続いて、北田助教授(ハンガリー)、西村教授(ギリシヤ)、岡村助手(フランス)も出張されました。一方、海外からの客員研究員も多く、1～2月には、伯国からK. Uehara教授とK. Tamada氏が、またこの9月からDr. Y. TezukaさんとS. Niyama氏がJICAの支援のもとに土木教室に来ておられます。どうか、卒業生の皆様も、お元気で活躍されんことを祈って止みません。

(土木工学科主任教授)

応用物理学科の近況

勝俣 五男



今年は夏が暑く、秋は週末ごとに雨と云う気候ではありますが、同窓会の皆様にはお元気にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

私事で恐縮でございますが、先ず自己紹介させていただきます。旧原子力基礎研究所の廃止に伴い

平成元年4月より工学部勤務を命ぜられ、応用物理学科にて新設のプラズマ工学講座を担当いたしております。なにせ学部教授としては新米でございます、学科の先生方のご協力を得まして、なんとか学科主任の重責をはたさせていただいている所でございます。今後ともよろしくお願いたします。

応用物理学科の近況をお知らせ致します。学生の就職状況は、例年にもまして好調でございます。これもひとえに同窓生の皆様の作り上げてくださった実績のたまものと感謝申し上げている次第でございます。なお、就職関連業務とおしまして、同窓生の皆様の、社会での広がり、要職でのご活躍の様子がうかがえまして心強い限りとも存じております。

大倉先生にはこの3月31日に無事定年を迎えられ、本学名誉教授の称号を授与されました。現在は岡山理科大にご勤務されております。先生の永年の労に對しまして、改めて感謝の意を表させていただきます。村井、横田の両先生はお勤め最後の年度と云うこととなります。両先生には、特にお願して学科の雑務にご協力いただいておりますが、お元気に頑張っておられます。西村先生は、9月から本学学生部長の要職につかれご活躍中でございます。大倉先生の後任といたしましては、この10月1日に量子物性工学及び物理計測学講座担当として森雄造教授の発令が有り、又、同じ日に光物性講座の助教授として石黒英治助教授の発令がありました。新進の先生方の活躍がご期待いただけるものと存じます。

応用物理学科も世代交替の時期を迎え、更なる発展を期して各先生方も元気に頑張っておられます。

最後に、激動する世界情勢の中でご活躍されて居られます同窓生の皆様の、ご健康とご発展をお祈り申し上げます。近況報告を閉じさせていただきます。

(応用物理学科主任教授)

情報工学科の創設

山下 一美



今日は情報工学科主任として電気工学科卒業生の皆さんに近況をご報告します。本年4月に工学部に新たに情報工学科が設けられました。新学科は4講座構成、学生定員は15人である。これにより電気系は既設の電気工学科に長年の

懸案であった情報工学科を加えて、大きく飛躍するものと信じる。今年入学した新入生が卒業する平成6年までには、5講座態勢に充実され、大学院組織も完成する予定である。新学舎も現在建設中であり、平成3年2月完成予定です。

電気工学科より情報工学科へ移籍した教員は私のほか、奥本隆昭、細川省一、藤原直賀人各教授、岡本次郎、濱裕光各助教授、北村泰彦講師、中島重義助手の8人です。本年10月1日付で辰巳昭治助教授が豊橋技術科学大学より赴任されました。さらに、引き続いて教員の充実を計っていく予定です。

情報工学科各講座の教育・研究内容を下表に示す。

| 講座名 | 教育・研究内容 |
|------------|--|
| 情報システム工学 | パイプライン処理、超並列処理を含めた新しい計算機アーキテクチャの開発、および3次元動画像を含む画像処理に関する教育・研究 |
| 情報処理工学 | 音声・画像などのマルチメディアの情報の処理・伝送・蓄積および神経回路網による情報処理に関する教育・研究 |
| 知識情報工学 | 人間の行っている知識情報処理を計算機上で実現するための知識表現・推論・学習などに関する教育・研究 |
| 情報ネットワーク工学 | コンピュータ・ネットワークなどの情報通信ネットワークや並列処理計算機中のプロセッサ間の情報交換などに関する教育・研究 |

新学科は既設の電気工学科と密接な連携のもとに電気系の発展に力を入れていく所存でありますから、電気工学科の卒業生諸兄の絶大なご支援をお願いする次第です。

最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念致します。

(情報工学科主任教授)

生物応用化学科の新設

太垣和一郎



いよいよ新しい生物応用化学科がスタートしました。いろいろと紆余曲折がありましたが、工学部に生物系の学科が生まれたことは、またそれは化学系学科が二つに増えたことをも意味していて、情報工学科の新設とともに、工学部の

今後の発展にとって非常に大きな出来事だと思っています。新一年生については、まだはいつてきたばかりで、彼らが卒業生の皆様の仲間に入れて頂くのは4年後のことですが、今から気にかけて頂いて絶大なご支援をお願いしたいと思います。

学科の講座名、教員組織、研究テーマ、などは次の一覧表の通りです。ほとんどの教員は応用化学科からの移籍ですが、新しく、加藤錠治教授を学外からお迎えすることができ、また笠井佐夫教授を旧原子力基礎研究所からお迎えしました。そうして新学科では、たんなる応用化学科の延長ではなくて、生物のすぐれた機能を、化学を基礎にしながら工学の分野に適用して、新しいバイオテクノロジーの時代を拓く研究を進めたいと考えています。それとともに、市大ならではの、この分野における創造性にあふれた人材を養成したいと願っています。

| | | | |
|--------|-----------------|-----------------------|---------------------------------------|
| 生物工業化学 | 教授 助教授 | 仲矢忠雄 笠井佐夫 | 生体類似膜、酵素の改質、 生物発光の機構と応用 |
| 生物化学工学 | 教授 助教授 助手 | 加藤錠治 幸塚正児 大嶋寛 | バイオリクター、バイオ プロセス工学、生体活性物 質の分離精製 |
| 生体機能化学 | 教授 助教授 講師 | 太垣和一郎 玉垣誠三 萩野健治 | 生化学反応機構、生体類似 精密有機合成、人工酵素の 分子設計 |
| 生体材料工学 | 教授 講師 講師 | 木下雅悦 国枝紀夫 山内清 | 高分子膜、機能性高分子の 合成、天然高分子の化学と その利用 |

さて次の課題は大学院の設置です。私たちは充実した大学院を切望していますが、その実現には私たちの努力はもちろん、関係各位の深いご理解と絶大なご支援がなくてはなりません。皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りするとともに、新学科への一層のご支援をお願い致します。
(生物応用化学科主任教授)

近況だより

原納 淑郎



秋冷の候となりました。昨年来の、世界そして日本の社会的・経済的激変に加え、いまはまた、中東に端を発する重苦しい暗雲が垂れこめておりますが、同窓の皆様にはご健勝のうえ、ご活躍のこととおよろこび申し上げます。

さて小生、本年3月大阪市立大学を定年退職いたしました。思えば、昭和34年、理工分離で誕生した応用化学科に本邦初の反応工学講座が開設されることとなり、同年10月助手として採用されました。因みに、講座の名付け親は井本立也先生であります。理工学部創設以来の銚銚たる研究陣と自由潤達な気風、“権威にはただちに追随しない”という市大の伝統、大阪という“上方”のひびきと、“市民(シチズン)の・市民による・市民のための総合大学”というイメージ。井本先生のご恩顧にふれてこの大阪市大に職を得たのは正に望外の歓びでありました。

それから30年と6ヶ月、日々心を新たに充実した大学での生活を過ごさせて頂きました。大学の昭和史の変遷の中で万感こもごも到りますが、研究・教育、管理・運営、あるいは学会活動の諸面で、幾たびも青春を経験し、その都度、“科学する心”、“混沌と形象”、などについて多くを学ばさせて頂きました。よき恩師、学部内外のよき先輩・友人、そして今は同窓会々員である素晴らしい学生諸君への感謝の念で一杯です。

過日市大にお邪魔したとき、建設中の、B・C棟をH型に結ぶ6階建て新校舎を拝見いたしました。工学部の更なる発展を心からお祈りしております。

小生は4月から、昨年新設されました福山大学工学部食品工学科に勤めております。福山大学は昭和50年に創設され、現在、経・工・業の3学部からなり、福山駅よりJRとバスで約30分の自然の真只中にあります。食品工学科は8研究室24名の予定で、面構えのよい若手教員の意気旺んです。冷水にならぬよう、微力を尽したいと存じております。桜・つつじ・すすき、夏でも鶯の囀りが聞かれ、今は、野山が濃く薄く色づき、山あいに棚引く夕餉の烟に人恋しさを誘われています。何卒、これまでと同様のご厚誼を賜りますようお願いいたします。

諸兄姉のますますのご清福をお祈り申し上げます。

[大阪市立大学名誉教授(元応用化学科教授)]

杉本の花と樹々

三輪 雅久



工学部C棟の学科が杉本キャンパスへ移転したのは、昭和41年の夏であった。まだ荒地が残るなかで、学部の中庭に築山ができ、植樹もぼつぼつと行なわれて、すこしずつ環境が整っていった。前庭にマツが植えられ、石も置かれた。

新卒の有志が樹木を中庭に寄付してくれたのも、そのころに始まる。それらの樹々もすっかり根をおろして茂っている。

理工の間を南北に時計台に向かって走る植樹帯が出来たのは、すこしあとになる。長く荒地であったこの部分に、ケヤキの植栽をしようということで、工事が始まった。そのひと夏は、工学部A棟の窓には特別に丈夫な網戸をいれて、虫よけをしなければ過ごせないほどの、臭くて暑い我慢の夏であった。匂いと虫が大変であった。緑地の土を全部掘り下げて、そこに基肥を入れたからである。今なおその効き目があるらしい。ケヤキの間に、最初はサルスベリなど他の樹種も混ぜて植えこまれた。いま、新緑のころ、1日1日と彩りの変化を見せ、若葉の擦れあう柔らかい音の聞こえる、木立になった。会議室の窓から眺めるケヤキの新緑は見事の一言につきる。夏には、セミ採りの子供たちが群がり、鳥たちも集まる。市内でこれほどの木立は貴重である。

工学部階段教室の東北の隅にハクモクレンが1株立っている。いつごろからあったかは記憶にないが、はじめはヒョロヒョロの細い木であった。いつも年度末行事で多忙を極めるころ、真っ白な、大きな花を付ける。ケヤキなどまわりの樹々はすっかり葉を落とし、ここだけにひと足早く春が舞い降りる。冬のあいだに花芽が枝の先にひとつずつ付き、すこしずつ伸びてゆく。そして、白い大きな花びらを見せてくれる。何もつばむもの無い鳥たちが、この花びらをついばみにくる。多分、新鮮なサラダにでもありつきたいのであろうか。この時期、よく温帯低気圧が通過して強い西風の吹くことが重なる。モクレンの花びらは大きいだけに風に弱い。折れ曲がって茶色に変色した花びらも、鳥についばまれた花びらも無残である。西風が真っ直ぐに通る、風道にわざわざ植えたのが間違いかも知れないと思いながら、その横を歩いたものだ。新年度になるころ花はすっかり終わり、その下から大きな葉が出揃ってくる。いまは太い幹のハクモクレンは、年度末行事と結び付く。

中庭の東北寄りの隅に小さな花壇があって、そこに黄金色の花をつける低木があった。気をつけて学内を歩く

と、何ヶ所かに同じ木があった。元原研の南側の植え込みの中にもあった。すこし珍しいので名前を聞く機会を待っていたことがある。図書分室の司書で花などに詳しい方があって、これはなんというんでしょうと、通勤電車のなかなどでよく話題になった。偶然にそれはオウバイとわかって、キャンパスのあちこちにあることもわかった。以後、毎年、黄金色の花を眺めた。増築工事でどうかこの間、見にいったら、そのまま板囲の外に健在であった。

中央図書館の西玄関の横にモクセイのおおきな株がある。毎年、10月1日の前後に確実に花をつけ、なんともいわれぬ芳香を放つ。大学本部でなにか会合があるとき、何度もこの木の前を横切る。多ければ日に何度も歩くことがあった。この花の咲いている時期も、結構に用事のあった時期である。大学の暦にはどこの木に花が咲くなどとは書いていないが、1年周期のはっきりとした大学内の出来事は、筆者の記憶のなかで、樹木や花の暦と結び付いているものが多い。その季節になると大学の行事と杉本の樹々や花の記憶が蘇る。

〔大阪市立大学名誉教授（元建築学科教授）〕

事前事後

大倉 潔



本年初頭から「日本経済新聞」「アエラ」「科学」などに、大阪市立大学理工学部の創学の理念についての記事が相ついで掲げられていた。いづれも、素粒子・宇宙線などを専門としている物理学者からの発言であり、「従来の理学部でもなく、工学部でもない新しい工学部を創設する」との理念が、40年たっても終に「達成されなかった」との旨を述べられている。これは、しかし事実誤認に基く発言と思う。というのは、この専門分野は、物理学の中で工学と関与することが極めて少なく、工学を論ずるには不適当な疎縁の地にあるからである。20世紀の物理学は、

二大潮流を確立したことで有名である。一つは相対性理論、もう一つは量子力学である。歴史的にみて、物理学はつねに工学の母胎であった。20世紀の工学は、特に後半において量子力学を基礎とする固体（物性）物理によって飛躍的な発展をとげるに至った。物性物理により、物質の性質は、原子又は分子の大きさのサイズで、決定出来るようになり、物性のもつ独自の機能の探索、その応用開発が可能となったのである。トランジスタの発明（47年）はその代表例であり、これを契機として20世紀の工学は革命的な変貌を果たした。この様に、物性工学

は物性物理と直結して現在発展中である。

私の在職中、他学科の甘木名誉教授から御質問を受けたものである。「君達応用物理（学科）は、少しは工学部の中での存在理由をみつけられる様になったかい。」その御趣旨は、「君達、純粋物理ばかりしないで工学に目を開き給え」とのこと。お答えする代りに「先生、最近日米半導体戦争で日米経済摩擦が深刻とのことですが、その半導体工業を担っているのはどこの学科の卒業生か御存知でしょうか」とおき、した。先生曰く、「ウン。それは知らんなあ。こゝで私の次の発言がないとまさに恥じて死すべきである。「それは応用物理学科の出身者なのです。だから今や応物は工学部の大看板の花形学科となっています」。先生、「それはもう一つ知らなかったことだなあ」。

応用物理学会は、先端技術、新機能材料開発、未来産業の育成を一番真剣に取り組んでいる学会である。会員は応用物理学科出身はもとより、電気、化学などの他学会からの雪崩込みがすさまじく、物理系随一のマンモス学会となっている。応用物理学会は、言わば市大理工学部理念の発現体の様相を示している。本学において工学部に応用物理学科があり、理学部に物性物理関連の講座があり、本学の将来計画に理工一体の研究所設置の案のある限りは、理工学部創立の理念が生きてづけていることに疑を抱く人はないと思う。教育・研究の達成評価には、長い時間を要するのは、世の常のことである。

今迄、私は原稿依頼の度毎に、卒業生の工業界での活躍ぶりを伝えて来た。今回は、最後なので、我が門を出でて本学及び他大学で活躍中の方々を御紹介しておきたいと思う。すべて大阪市立大学の学風の高揚、とりわけ理工学部創学の理念の実現に遇進されている方々である。邑瀬和生（阪大、理、物理、教授）、森 雄造（阪市大、工、応物、教授）、飯田 武（阪市大、理、物理、教授）、鎌田 修（職業訓練大学校、助教授）、松岡政雄（伯国サンパウロ大学、物理、助教授）、秋山宜生（岡山理大、工、電子、助教授）、兼松泰男（阪大、理、物理、助手）、半沢弘昌（阪大、基工、物性、助手）その他にもサダオ・イソタニ（伯国サンパウロ大学、物理、教授）、千葉義暹（東京理大、工、教授）、金谷輝人（岡山理大、工、機械、教授）、河野勝泰（電通大、電子、助教授）の方々が長期間滞在研究された市大時代をなつかしんでいらっしやる。

〔大阪市立大学名誉教授（元応用物理学科教授）〕

たまには畑違いのことも…

金田龍之介



終戦後の混乱期に都島工専機械科に入学して、新しい寮生活を始め、都風寮と云う名前も僕がつけました。

戦争中お国の為にと云う軍国中学生であったので、戦争が終わって何だか虚無的な気分になって勉強もあまりしなくなりました。何とか自分を立て直すことから始めないかと思っていたら、学校の記念祭で演劇をやると云う事になり、出演者募集のピラが貼ってありましたので何人かとお出かけました。つまり人数が足りなかったので強制的に出演させられたみたいなことでしたが、やって見ると、とても自分の性に合っているし本気になると思うものにぶっかった気がしまして、学生演劇やアマチュア演劇にのめり込んで行きました。

それから学校を卒業して以来四十何年、工学部の歴史と同じ程、演劇の道を歩んで来ました。前に四十年ぶりのクラス会に出席しましたら「君は、早く自分の道を見つけて成功したね」と云ってほめてくれた級友もいましたが、面映ゆい思いをしたものでした。よく工科系から俳優になったのは何故？と質問されますが、仕方がないので「俳優は魂の技術者である」と、外国の劇作家の言葉を引用して、お茶を濁しますが、所詮は自分が好きで本当の喜びを味わう事が出来たからでしょう。あまり工学部の方々とは関係がないようですが、土木科の方は都島工専の植木正富氏がよく有志に声をかけて観劇してくれますし、都島工専機械科出身で四十年間応援し続けてくれる大月正雄君はじめ多くの友人がいます。都島工専と合同公演を持っていた市立女専演劇部の女性達と、今でも歳月を超えての集まりも持っています。

以前ニューヨークで蛭川幸雄演出の、「王女メディア」を上演した時、市大法科出身のニューヨーク日立の方が、セントラルパークの野外劇場の打上げパーティで乾杯を申込みました。桜花らんまん、月おぼろ…を歌いたいとのことでした。感激しましたよ。また機会があれば工学部有志の観劇会をやって下さい。大体、東京大阪名古屋の大劇場。小公演では南九州を除く全都市を廻りました。今迄戴いた賞は大阪府民劇場奨励賞、日本放送作家協会主演男優賞、十三夜会賞（関西批評家賞）、八戸市民劇場男優演技賞、菊田一夫演劇賞です。著書は「四十四年目の役者」と云う半自伝と、「ちょっとやれないヨーロッパで二度も芝居をやった来た。」と云う、アテネ、ローマ、アステイなどを廻った時の記録です。

（機械・昭和24年卒・俳優）

遠き昔の思い出

佐藤 勝男



卒業してもう35年近くになりました。卒業研究は井本稔先生の研究室にお世話になりました。当時、直接御指導いただいたのは(故)箕浦有二先生で、扇町のボロ校舎に廊下にまで机を置いた大所帯でありましたが、活気にあふれたすばらしい研究の雰囲気がありました。

卒業後、東京オリンピックや万博などで、日本中の街が都市再整備計画などで変身して行きました。勿論、大阪はその最先端であったのかも知れません。年月は思い出せませんが、ある日、なつかしさの余り訪れた扇町校舎は跡形もなくなっており、ビジネスホテルに変身しているのを見て驚いてしまいました。しかし、そのことがあって大阪で泊るときは梅田から歩くと一寸遠く、近くに適当なホテルがあるにもかかわらず、殆どここを利用することになっています。扇町公園は昔のままですが、日本新記録や世界新記録に沸いた扇町プールは日本水泳界の低調のせいばかりではないでしょうが、さびれておりました。(応化・昭和31年卒・三菱瓦斯化学㈱)

今も役立つもの

内藤 徹男



社会に出て30年。今でも克明に覚えているのは、浅野清教授が自ら学生を引き連れて奈良の寺々を巡り、そこで語られた日本建築史の講話である。言う迄もなく先生は法隆寺の解体修理を通じて、上代建築の技法を精緻に研究された

のだから、ご説明が実に具体的である。また若い時はデザイナー志望だったと言われるだけあって、古建築の視覚的なデザインの要点を解り易く教えて下さった。これらの話は、建築設計が仕事の私にとって、今でも貴重なデザインの基本知識として役立つ。

50代の中端に差し掛かりボケが進まないうちに、この講話を映像化しておこうと思い立ち、奈良方面に行く度に寄り道をして、先生の視点に立ってスライド写真におさめておいた。編集したものを直弟子の大阪工業大学教授・青山賢信先輩にチェックして頂いたところ、「よおこれだけ覚えているなあ」とお誉めにあずかった。東洋諸国に出張の際も、各地の古建築に先生の視点を重ねさせて鑑賞すると、新しい発見や感動が、あるいは疑問が生まれて、旅の楽しさは一段と倍加するのである。

(建築・昭和33年卒・㈱日本設計常務取締役)

扇町校舎

池田十三雄



大阪市立大学を卒業して丁度30年になる。その間に、世の中は相当変わった。我々理工学部35年卒業組は、扇町校舎で学んだが今、扇町校舎といえ、あつた事すら知らない人が多いと思うが、当時は蛸足大学で扇町に理工学部が北校と南校とがあつた。たまたま当社大阪支店が3年前、中崎町にある梅田センタービルに移つた。丁度扇町を見下す位置にある。当時と変わらずに扇町プールがある。北野病院もある。そういえば前のYWCAにダンスをよく習いに行ったものだった。結局はあまりうまくならなかったが。研究室の窓からは、当時出来たてのクラウンというキャバレーのネオンサインが輝いていた。もうクラウンの燈も消えた。走馬燈の様に想い出となつて、睨に浮かんで来るのだが、さて自分の学校はと見回したが、南校も北校も見当らない。世の中の移り変りとはいえ、何だか少し淋しい気がする。毎日毎日、見下しているうちに、3年が過ぎ去つた。もうすぐすると、又、元の梅田駅前の第一生命ビルに戻る。もう、扇町の想い出とおさらばだ。

(電気・昭和35年卒・㈱安川電機製作所大阪支店)

環境問題について

小川 次夫



昭和30年前半、計3年間通つて扇町学舎の印象が深い。学舎の周辺、ならびに通学コースは現在、昔の面影がほとんどないくらいに変貌を遂げている。

当時の周辺道路は勿論、主要道路でも大阪の北の中心の近くにありながら交通量は非常に少なく、路上に見る車は、バス、タクシー、営業貨物車が主だったと思う。

この頃は、高度経済成長時代の幕開けで、マイカー時代の始まりでもあつた。国民車的存在の軽自動車が出現し、当時として爆発的に売れたものである。国民の消費も次第に増すに従つて石油の消費も増えてきた。一方、宅地や工場用地の開発のために、農地や森林地帯が変貌するものもこの頃からである。と同時に大気汚染問題が昭和40年後半より現れ、有害成分の低減には最大の努力が払われてきた。最近では地球規模の環境問題が取り上げられるようになり、今後、化学燃料の使用を如何に減らすかが、課題であろう。個々の消費者(利用者)が良く考える必要のある時代がきたとも言える。

(機械・昭和36年卒・ダイハツ工業㈱)

近況

森嶋 章



卒業後29年、この間、研究所勤務10年、工場勤務8年、東京本社に来て11年、現在全社の生産技術を担当しています。老朽化したプラントのリプレース、省エネ、省力化を進め、最近ではDCS化に取り組み、更には高度にCIM、SIS

の構築に取り掛かっています。エレクトロニクスを大いに利用しているのか、利用されているのか？複雑な心境です。一時中断していた省エネ対策も中東イラク問題後、又緊急課題ともなってきました。

年をとると人なつかしくなり、昭和36年度応化・化学・生物卒の関東地区在住者で毎年1～2回、10人前後で親睦会を続けています。時には高尚な話題となり、「企業にとって研究開発はベイするのかわ？」「先端技術は本当に儲かる事業となりうるのかわ？」等々の議論となり、「企業が生き残るためには新しいことをやらねばならない。その為には研究開発の効率化、意識改革、テーマの選択を含む研究管理がポイント」におちついています。

昭和36年度化学系の全体の同窓会は30周年として、5年ぶりに平成3年に再会する予定、楽しみにしています。

(応化・昭和36年卒・チッソ(株))

私は今

中津川恒生



私は大学時代、専門の勉強は教養も含めてあまりやらなかった。でも卒研だけはやったつもり。何とか卒業させて頂いただき、何とか今の会社に入社させて貰い、そこで初めたのが電気自動車の開発。

これはものにならんと諦めて、次は電動車椅子用のリラクタンスマータの開発。これは何かものにして2年程生産してさよなら。その後エンジン発電機的设计。うーんこれはながい、もう8年も続けてまだやっている。

浜松は気候が良いのかのんびり屋のお人好きが多い。しかし「やるまいか精神」てのがあって元気はいい。オートバイや楽器産業は盛んだし、特に5月連休に行われる浜松まつりの凧揚げはすごい。なにせこの私もハーハーゼーゼー声も枯らして凧糸を引っ張っているんだから。浜松城は別名出世城、と格好つけても要は城主定まらぬ文化レベルの低い城下町。家康さんは猿樂が大好きで観世大夫を浜松城に呼び庇護していたとか。我も続けて謡って、舞って、太鼓を打って。

おっといけねえ。仕事第一。仕事第一。学生諸君は勉強。勉強。

(電気・昭和44年卒・スズキ(株))

「15年の垢落としの特効薬は？」

田畑 和久



大学を卒業して、早いもので15年が過ぎました。この15年間、鉄造りに携わってきましたが、非常に早く時が過ぎた気がします。鉄鋼製造技術もこの間に大きく変わり、生産性は勿論のこと、品質設計についてもユーザーでの使用性

に最重点を置いた「鉄を使うから、使いやすい鉄へ」への変身が進んできました。私の勤めている八幡製鉄所でも「お客様第一」をスローガンとして、素材産業の持つカラーを払拭し、一般消費材と同様な感覚を内外に定着させる努力が行われています。今年になって、私の工場のすぐ横にスペースワールドという宇宙遊園地が開設され、多くの観光客が訪れるようになりました。昔の「鉄の町 八幡」から、少なくとも外観は大きく変身しています。しかしながら、これも内にいる者の見方であり、外からの評価は「？」であります。大学を卒業して、時が立つほどに目は曇り、視野は狭くなるばかりであります。どうか帰阪の折には、この曇った目を磨くクリーナーを提供戴ければ幸いです。

(機械・昭和50年卒・新日本製鉄(株))

洗面器

久永 順郷



先日、研究室の若手が、減圧蒸留をしようと磨り付きの高価なキャピラーを細工していたがとうとうダメにしてしまった。そんなもの使い捨てのピペットを利用すれば簡単にできるのにと、やり方をアドバイスしてやると、10分後には蒸留を始めていた。市大の研究室は決して豊かではなかったもので、先生方や仲間からある物を利用した実験上の色々な工夫を教わった。会社は、大学より研究費は潤沢なので何もケチルことはないのだが有りあわせの物で実験装置を組み立てる習慣は今も抜けない。大学の研究室から会社の実験室に導入した物がある。洗面器である。器具の洗浄筈、反応槽、氷の運搬、等様々な使い道がありしかも丈夫で軽い。当初カラフルな洗面器は会社の実験室には奇異に映ったが、今ではすっかりとけこんでいる。化学の研究開発は非常に金のかかるものであるが、汎用性を持った道具でちょっとした工夫をすれば、意外と大きなコストダウンに結びつくものである。大学で身についた“あるもので工夫を”精神はこれからも何かと私を助けてくれるだろう。

(応化・昭和54年卒・ダイキン工業(株))

近況報告

榎田 操



大分に来て早や12年目になる。土木工学科(350名)の教員8名の中で海岸工学・河川工学を初め、週に16時間の講義・演習を担当している。当初の5年間は測量及び実習の担当であったが、昭和60年度に文部省助成により海岸水理実験場(総額1.2億円、1200坪)が完成し、専門の海岸工学の研究が可能となった。但し、屋外で、大学院も無く、4年生の講義過多等から毎年8月末までは予備実験に費している。ここ2年半は、毎週土曜日に朝5時起床し、車で九大応用水理研に通い、10時から22時まで研究して深夜に帰宅する生活である。研究内容は、沖浜帯での循環流と漂砂移動、海砂採取と海岸侵食、波による越波・水位変動の利用等である。初めて、九大院に卒業生が合格すると共に、九大院生が本学で実験したり、遅ればせながら私自身初めて国際会議(11月・北京)で発表できる様になった。いつも疲れを感じるが充実感で一杯である。1日を長く感じていた大分の日々が、やっと市大院生時に戻った様に思う。一步一步地道に成果をあげる日々を送りたいと念じている。

(土木・昭和51年前博修了・日本文理大学一大分市)

「海洋調査の思い出と近況報告」

原 圭太



私は学生の時から生物学が好きで研究室は建部先生の研究室を選択しました。研究テーマ「海洋調査」の一環として4回生の夏に水質、生物の調査・研究の為に何度か瀬戸内海に合宿に出かけたことを思い出します。海に行き、ゆったりとした船で遊べる優雅な事を想像し行ったにもかかわらず、船は漁船、夜は寺の御堂、その上時には、夕立になり海が荒れる中で調べなければならなかったこと、エンジントラブルで瀬戸内海を漂流するはめになりSOSの手旗信号で近くの船に助けってもらったことなど貴重で楽しい体験であったように思います。

その後私は生体情報・ME学を勉強したいという希望で阪大医学部大学院へ進学し、工学の知識を生かしながらbiomedicalな教育をしてもらえると、私にとっては最適な教育を受けることができました。現在、シャープ(株)でアメリカの製薬会社のエンジニアと共同で医療機器・システムの開発を行っています。阪大病院=medical、シャープ=engineeringというbackupをもちながら夢中で研究、開発をしている状況です。

(電気・昭和58年卒・シャープ(株))

「3K」に思う

高橋 光和



同窓の皆様、元気にお過ごしでしょうか。過日、就職活動のお手伝いで久しぶりに研究室に伺いました。最近「3K(危険、汚ない、きつい)」の仕事は嫌われるといわれ、2次産業への就職比率が低下し危惧されています。私の仕事は半導体製造装置関係ですが、今や産業の米といわれるこの業界にもひと味違う「3K」があると思います。材料やプロセスを考えると結構危険な部分がありますし、きついのは仕事量の問題です。残るKは「汚ない」ではなく、いかにも業界らしい「きれいな」だと思のです。クリーンルームに象徴されるこの「きれいな」の下では、目しか露出しない服装、めったに窓のない空間、一部では黄色い照明もあり、きれいでない外部との往来で条件反射的に鼻毛がよく伸びるという噂すらあります(確かに鼻毛はよく切ります)。精神的には決して良い環境とはいえません。

私自身、別段こういうことを否定的に感じているわけでもなく、業界の発展を願ってやまない一人なわけですが、予想外の「3K」で将来嫌われることがないようにと、就職活動のお手伝いをしながら、ふと心配した次第であります。

(応物・昭和58年卒・大日本スクリーン製造(株))

近況

矢橋 武人



橋梁設計に携わり早や3年目を迎えました。会社に入ってから今まで手がけた工事が2件という技術屋としてはまだまだ駆出で、日々がむしゃらに仕事をしている状況です。私の従事している橋梁業界は、ほとんどの物件が官需であり、昨今の内需拡大により仕事量にも直接反映し、常に高操業度となっています。学生気分がまだ抜けきれず遊ぶ時間が欲しい私にとっては、少々つらい時もありますが、自分で初めて設計した橋(関西新空港にアクセスする阪神高速大阪湾岸線の一部で、長さが168m、鋼重が1100t。ちなみに鋼橋は、t当りいくらで直段を出します)が竣工し、目のあたりにした時は、その大きさ、重量感に感動し設計時の苦勞も報われる思いがしました。

これからも橋梁設計で飯を食うこととなりますが、初心の感動を忘れず、柔軟な思考をもって仕事にのぞみ、そしていつの日にか自負できる“作品”を世の中に送り出していきたいと思っています。

(土木・昭和63年前博修了・日立造船(株))

会員通信

社会人としての“プロ”

岸田 博夫



私が卒業した年は昭和45年である。当時、学生運動が非常に盛んな頃で、学園封鎖など学業とあまり関係のない事が多々あった。そのおかげで、授業が中止になった事もあり、結局卒業式もなかった事を記憶している。その後、春本

鉄工所という会社に勤務することとなった。当社は橋梁、ビル鉄骨など、社会資本に係わりのあることを本業とする会社で、入社当初は、大学で教わった事が役立つ橋梁の設計業務が私の仕事であった。時代の流れ、多角化ということもあり、学生時代に専門的に学ばなかった分野のことも、工作上必要となり始め、現在では工学的なものばかりではなく、あらゆる分野のものから知識を得なければならない状況となった。

資本主義社会で、企業というものは利益を追求し、そこで良い結果が出てこそ、社会に存在しえるのである。したがって、企業人は全てにおいて、プロでなければならないことになる。プロになる為には、現在の自分の置かれている立場で、そこで必要とする知識に対して、常に興味を持つ努力をし、それを自分のものにしてゆく。そうする事が、あらゆる所で通用する“プロ”になれるものと信じている。(土木・昭和45年卒・(株)春本鉄工所)

太陽光発電

亀田 正明



学校を出てから早くも六年目になる。現在の仕事は、三洋電機(株)・機能材料研究所で、太陽電池の高効率化の研究を行っている。

1970年代のオイルショックに始まった新エネルギーに関する本格的な研究開発への動きの中で、太陽

光発電は、新エネルギーの一翼を荷なうものとして注目されて来た。近年、地球環境問題が、文字通り地球規模で、取り上げられ、国際政治の課題の一つにまで数えられるようになって来ている。太陽電池が民生用に用いられるようになって、10年程になり、今年は、a-si を搭載したソーラープレインが、北米大陸を横断するなど、実用化研究以外に、太陽光発電の一般的な普及や啓蒙がより一層進んできている。湾岸危機の発生など、今後、新エネルギーへの関心は、その程度は別に、高まっていく方向にある。エネルギー供給のシステムの変化は、おそらく社会のシステムの変化をもたらすだろう。太陽光発電の研究開発にたずさわるものとして、そうした未来のビジョンを自分なりに描きながら仕事をしていきたいと思う。(応物・昭和58年卒・三洋電機(株))

私の今日この頃

杉本 幸嗣



野村コンピュータに入社して8年たち、社名は野村総合研究所と名を変えてしまいましたが、一貫して流通システムの開発に携わってきました。酒・食品業界に始まり、出版社や本屋、不動産等々のシステムを手がけ、現在はスーパーマーケット(チェーンストア)のトータルシステムを担当しています。

内容と言え、メインフレームと、店舗に置いたストアコントローラ(オフコン)を結び、業務処理(EX、受発注)や分析処理等の仕組みを預っており、今はやりのSI(システムインテグレート)みたいな事をやっています。

当然の事ながら、ハードやソフトのみの知識だけではやっていけないという事実直面し、本や顧客から貪欲に業務知識を吸収しつつ、システムの提案を行なっています。

SEの一人よがりではなく、現場の声なき声を反映させた、そんなシステムを提案していきたいと思っている今日この頃です。

兎に角、好奇心と向上心だけは、いつまでも持っているものです。(応物・昭和58年卒・野村総合研究所)

支部通信

工学部関東支部同窓会だより

片井 振武

工学部関東支部同窓会も六回目を迎えることになった。日頃より皆様方からの多大なるご支援ご協力を賜り、回を重ねるごとに充実して参り盛大裡に楽しく過して来たことを心より感謝し喜んで居ります。

今回は場所と雰囲気は抜群の銀座のど真中にある日航ホテルのスカイルーム10F(議事堂赤坂を見渡せる最高の眺望)を借り切ったの華やかな会合(参加者70名)を持つことが出来ました。

日時 11月10(土)PM5:30~9:00

場所 日航ホテルスカイルーム

招待教授 工学部応用化学科 平井竹次教授

最近の大阪市大工学部そして文系を含めた大阪市大の現在の情勢および将来展望をお話いただき、そして又、激しく変化する国際情勢、社会情勢を踏まえての我々の心構え、哲学に込められた示唆いただくことが出来、私達の学びの故郷を改めて意識する素晴らしいご挨拶を頂戴し一同深い感銘を受けました。

支部通信

講演 菅直人 衆議院議員 社民連 4期日
東京工大 応用物理学科卒 44才

日本と米国との関係をどう見るか、土地問題、都市計画をどうする、土地税制度の在り方、そして、技術系出身者への期待等、新進気鋭の革新的政治家として日本の危機打開に対しての抱負・見解を鮮やかに披歴された一時間のお話は、私達技術系出身者として強い興味で聞くことが出来、誠に有意義な講演会でした。

パーティ

日航ホテルの素晴らしいアレンジの雰囲気の中で、平井教授に乾杯の音頭をとっていただき、菅直人議員にもご参加いただき、我々一同と親しく懇談の機会を得、和やかにして楽しい雰囲気に浸った。当日の私達の合言葉は、

“華やかな雰囲気、サロン風のパーティの中に学科を越えて、エレガントなる交流を、そして対話を楽しくエンジョイしましょう”。

我々の願いである一過性の同窓会運営の体質を改善して継続的且充実した同窓会運営の為、何でも建設的意見を出しあって自主民主連帯をモットーに、積極的に盛り上げていこうとの気運も充分醸し出されて、会のニックネームも皆でつくろうとの連帯意識が盛り上りました。嬉しいことで御座ります。

皆様方には、支部同窓会の運営についてご賛同をいただき、多大の寄附金や賞品の寄贈のご厚志を賜ったことを紙上を借りて有難く御礼申し上げます。各科対抗のイベント大会もカラオケのパフォーマンスの競いの中雰囲気は最高に盛り上がり、盛会の中に次会を大きく期待して締めとなりました。

此の度は金田龍之助（機24）さんが帝国劇場出演の最中、ご多忙を押して色紙6枚に美しい絵を（心のこもった才能溢れる花の絵）描いて寄贈いただき本当に有難う御座居ました。

私達と違って激しい芸能界で鍛えに鍛えて来られた、舞台上にテレビに最高の活躍をしておられる金田さんから『朗らかに陽気に生きましようや』と、我が同窓生への熱いメッセージをいただきました。

関東支部役員

名誉会長 田中 康弘 (機20)
会長 橋本 雅之 (電36)
副会長 真野 司郎 (機39)
中村 俊雄 (建33)
竹中 清和 (電22)

茨田 隆 (土34)
山内 隆夫 (応化29)
谷村 有一 (応物37)

事務総局長 片井 振武 (機22)
福村 直樹 (応化修47)

会計担当 中村志奈子 (建61)

事務総局 〒223 横浜市港北区日吉2-19-8
片井 振武
TEL 045-564-3236
FAX 045-562-7151

事務局 福村 直樹
TEL 03-361-2738
FAX 03-361-1875

積極的なユニークな同窓会に発展して欲しいと願っている私達も今後頑張っていきますが、続いての皆様方の温かいご支援ご協力を切にお願い致します。

皆様ご機嫌宜しく。(機械・昭和22年卒)

同窓会愛知支部だより

西村 慎三

大阪市立大学同窓会愛知支部、有恒会愛知支部という名称で全学部共通の同窓会があり、東海3県（愛知・岐阜・三重）に勤務又は在任の卒業生で構成され現在会員数は約900名です。活動としては今のところ年1回の総会を11月頃行い親睦と交流を深めています。宮川茂夫支部長（昭23学部）、高橋弘副支部長（昭22学部）吉原幸一事務局長（昭42商）の3役を中心として各学部より出た幹事22名で運営され会員の意見を聞いて交流の輪を広げるべく努力中です。さて本年度の総会は第4回で11月13日（火）18:30~20:30迄名古屋駅裏名鉄ニューグランドホテルで開催され名古屋テレビ東本愛咲さん（昭62商）の司会で行いました。参加者は総数110名で内工学部卒業生は17名でした。

来賓として崎山学長、池田有恒会々長が出席され母校と本部の現状報告があり、次いで三瀬先生（元土木）と浅野先生（元建築）の紹介、会員最年長者箕輪先輩（大11本科）のユーモアたっぷりの乾杯、福引、竹内さん（昭44建築）のエール、肩を組んでの逍遙歌（桜花爛漫）の大合唱等々で楽しい一夜を過ごしました。

なお、東海地区の工学部出身で入会御希望の方は西村宅（TEL0586-68-1854）迄ご連絡下さい。

(機械・昭和31年卒・豊和工業株)

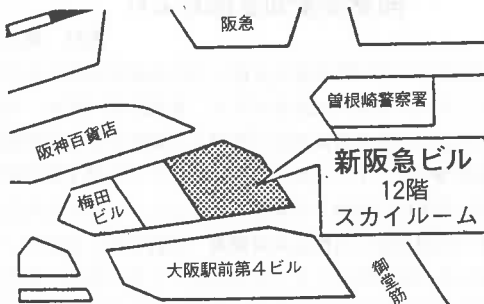
会員懇親パーティー1991のご案内

このパーティーは、一人でも多くの同窓生にご出席いただき、学年のみならず学科の違いを越えた幅広い親睦と交流を深めていただくための催しです。ぶらりと一人で、または友人を誘って多勢で、まずは奮ってご参加下さい。

記

日 時 … 1991年2月8日(金)
18時30分～20時30分

会 場 … 新阪急ビル スカイルーム
(阪神百貨店南隣、新阪急ビル12F)
TEL 06-345-4127



会 費 … 7000円 (当日会場で受付)

申込方法

氏名、学科、卒業年次、電話番号を、ハガキまたは封書にて、1991年1月15日までに、工学部同窓会事務局へご連絡下さい。

(注) ○同級生や同窓生を2人以上お誘い合わせの場合は、まとめてご連絡下さい。なお、17:30-18:20は評議員会を行ないます。

○ご不明の点は当会事務局へお電話下さい。

事務局年報

('89・12~'90・11)

'89年12月…同窓会報第8号を郵送(13日)。

'90年2月…'89年度収支決算書を作成(8日)。

3月…故木本英爾建築学科助教授に御花と弔電(8日)।'90年度入学手続生へ当会の案内資料および終身会費払込み要請書を配布(13日)。平成元年度工学部送別式および祝賀鏡割に繁澤会長、植木副会長他理事有志が出席(23日)。

4月…新入生からの会費の直接納入(4、5日)。

5月…所得税法の改正に伴う本人確認書類を大和証券(株)へ提出(8日)。特別基金の預け替えに伴う特別基金の臨時積立(22、25日)。

6月…郵政省定額預金のMMC化(8日)。

8月…会報第9号編集委員会(20日)。

11月…中央電気クラブにおける理事会で、同窓生懇親パーティー・次期事業などを検討(2日)。会報第9号の印刷発注(7日)。会報第9号を発行(未日)。

評議員の新任・交代

新任評議員(平成2年卒)および交代評議員は以下の通りです。クラスメートの各位はよろしくご協力下さるようお願い致します。

| 学 科 | 新卒評議員 | 交代評議員 |
|-----|-------|-------------|
| 機 械 | 林 信男 | |
| | 中谷 好孝 | |
| 電 気 | 曾根 正登 | |
| | 矢野 正久 | |
| 応 化 | 上野 正則 | |
| | 中西 慎 | |
| 建 築 | 伊藤 真二 | |
| | 庄賀 信彦 | |
| 土 木 | 濱崎 佳尚 | 木村 政郎(22年卒) |
| | 比留井 学 | 田中 久和(24年卒) |
| 応 物 | 西中 賢 | |
| | 東田 憲佳 | |

大阪市立大学工学部の電話番号〔06-605-(下記番号)〕(1990.10.1.現在)

| 機械工学科 | 電気工学科 | 応用化学科 | 建築学科 | 土木工学科 | 応用物理学科 |
|------------|------------|--------------|---|------------|------------|
| 福田 武人 2660 | 堤 四郎 2676 | 平井 竹次 2693 | 川村 純夫 2706 | 園田恵一郎 2722 | 村井 昭 2738 |
| 元木 信弥 2661 | 鈴木 裕 2677 | 小槻 勉 2694 | 木内 龍彦 2707 | 小林 治俊 2723 | 西村 仁 2739 |
| 逢坂 勝彦 2661 | 南 繁行 2760 | 五百井正樹 2694 | 谷口 徹郎 2707 | 鬼頭 宏明 2723 | 中山 正昭 2739 |
| 野邑 奉弘 2663 | 黒田 輝 2677 | 澤井圭二郎 2694 | 坂 壽二 2709 | 上林 厚志 2723 | 曾我部 伸 2740 |
| 西村 伸也 2664 | 志水 英二 2678 | 藺頭 健吉 2884 | 那谷晴一郎 2709 | 高田 直俊 2724 | 美馬 宏司 2742 |
| 東 恒雄 2666 | 重田 和夫 2679 | 椎名 教 2885 | 村上 益美 2709 | 望月 秋利 2726 | 藤井 康夫 2742 |
| 布部 誠 2665 | 松下 賢二 2761 | 真野 倅一 2884 | 成瀬 哲生 2710 | 東田 淳 2725 | 森 雄造 2743 |
| 上田 祐男 2667 | 高橋 秀也 2679 | 大津 隆行 2697 | 太田 洋一 2711 | 大島 昭彦 2725 | 笹沼 道雄 2744 |
| 南斎 征夫 2668 | 青笹 正夫 2681 | 山田文一郎 2698 | 新居 洋子 2711 | 本多 淳裕 2727 | 石黒 英治 2744 |
| 深井 完祐 2668 | 草開 稔 2681 | 圓藤紀代司 2698 | 大倉 良司 2711 | 山田 優 2728 | 人見 宗男 2745 |
| 吉岡 真弥 2767 | 前川 義治 2763 | 松本 章一 2698 | 多胡 進 2712 | 貫上 佳則 2728 | 北田 忠義 2745 |
| 玉村謙太郎 2669 | 藤井 知生 2685 | 小郷 良明 2701 | 杉山 茂一 2713 | 真嶋 光保 2729 | 横田万里夫 2747 |
| 上神謙次郎 2662 | 渡辺 博巳 2686 | 矢野 元威 2700 | 福田 晴彦 2714 | 西村 昂 2730 | 谷本 脩 2748 |
| 森元 時夫 2670 | 森下 昂 2686 | 三浦 洋三 2780 | 濱田 学昭 2716 | 岡村 治子 2731 | 串部 宏之 2748 |
| 若林三記夫 2670 | 建部 涉 2687 | | 赤崎 弘平 2716 | 日野 泰雄 2731 | 勝俣 五男 2879 |
| 守田 栄之 2671 | 三谷 七郎 2877 | | 斎藤 和夫 2717 | 小田 一紀 2732 | 三村三木夫 2879 |
| 秋山 貞夫 2672 | 中川 吉郎 2880 | | 三木 信博 2718 | 角野 昇八 2733 | 廣重 昇 2875 |
| 瀧山 武 2672 | | | 田中 康夫 2718 | 重松 孝昌 2733 | 増岡 俊夫 2877 |
| 中山 守 2673 | | | 三輪 嘉男 2719 | 中井 博 2734 | |
| | | | | 北田 俊行 2735 | |
| | | | | 中西 克佳 2735 | |
| 情報工学科 | 生物応用化学科 | 事務室等 | <h3>編集後記</h3> <p>今年も師走が迫り、会員の皆様もさぞご多忙のことと思います。現在母校では、新設2学科の学舎の建設工事が、来春の竣工を目指して急ピッチで進められています。主任教授の報告も本号から8学科になりました。また、今春は4教授が定年でご退職になりましたが、原納淑郎(応化)、三輪雅久(建築)、大倉熙(応物)の3先生からご寄稿いただきました。</p> <p>当会の唯一の支部である関東支部では、毎年活発な親睦パーティーが続けられており、本年もホットなレポートを投稿いただきました。また、今回はじめて東海地区3県(愛知・岐阜・三重)における全学的同窓会組織である大阪市立大学同窓会愛知支部・有恒会愛知支部の活動を掲載いたしました。これらの地区にご在住の同窓生はぜひご一読下さい。なお、来年は4年毎の会員名簿発行年に当たります。次の会報第10号は再来年に発行の予定ですのでその際にはまたご協力下さい。</p> <p>東京の月平均気温が15ヶ月も連続して平年値を上回っているのはグローバルな異変の一環とか(朝日11月21日)。日常生活への気候温暖化のインパクトが気掛です。</p> <h3>編集委員</h3> <p>南斎征夫(機39) 細川省一(電33) 大嶋 寛(化49) 赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 北田忠義(物36) 人見宗男(機31)</p> | | |
| 山下 一美 2682 | 仲矢 忠雄 2703 | 教 務 係 2653 | | | |
| 浜 裕光 2772 | 笠井 佐夫 2886 | 庶 務 係 2651 | | | |
| 中島 重義 2684 | 加藤 錠治 2699 | 図 書 分 室 2657 | | | |
| 細川 省一 2683 | 幸塚 正児 2696 | 守 衛 室 2096 | | | |
| 岡本 次郎 2684 | 大嶋 寛 2700 | | | | |
| 奥本 隆昭 2688 | 太垣和一郎 2695 | | | | |
| 辰巳 昭治 2776 | 玉垣 誠三 2696 | | | | |
| 北村 泰彦 3081 | 荻野 健治 2696 | | | | |
| 藤原直賀人 2689 | 木下 雅悦 2702 | | | | |
| | 国枝 紀夫 2703 | | | | |
| | 山内 清 2703 | | | | |

支部設置規則 (設定：昭和62年2月21日)

- 第1条** 支部を設置するときは、(イ)支部の名称、(ロ)支部長候補者名、(ハ)支部規則、(ニ)支部事務所々在地および(ホ)支部会員名簿を添えて会長に申し出、理事会の承認を得る。
- 第2条** 支部の費用は支部会員で支弁する。
- 第3条** 第1条の各項に変更があったときは直ちに会長に報告する。
- 第4条** 支部を解散するときは、支部長がその理由を会長に報告し、理事会の承認を得る。
- 第5条** 理事会は、本会の体面を汚し、または秩序を乱す行為のあった支部に対し、理事会の議決を経てその承認を取り消すことができる。